

令和7年度

「運営に関する計画」

(最終評価)

大阪市立大和田幼稚園

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- ・優しくて思いやりのある子どもが多い。しかし、自分から進んで人に関わることができる子どもと、受け身でなかなか行動に移しにくい子どもなど、様々な姿がある。人と関わる楽しさを十分に感じ、関わりが深められるように、異年齢交流の機会を多く取り入れ、保育内容を工夫していきたい。
- ・身近な環境や事象に興味をもち、進んで関わろうとする子どもがいる一方で、初めての活動に躊躇したり、受け身であったり、遊びが継続しにくかったりする子どももいる。子どもたちが「やってみたい」と心を動かし、遊びを存分に楽しむことができるような指導や環境の工夫に努めていく。
- ・幼稚園の特色である豊かな園内環境を生かし、昨年度から引き続き、身近な物を使って保育を進めているが、自然物に十分にかかわることができていないという実態もあることや教職員についてももう少し保育に生かしていくことができるのではないかと考え、再度自然を含めた身近な環境に興味をもち、好奇心や探求心をもって、自ら遊びに身近な環境を取り入れ子どもを育てられるよう、環境の見直しや取り組みについて考えていく。
- ・保護者が保育に参加・参観できる機会が増え、実際に園内での子どもの姿を見てもらったり、保育に参加してもらったりすることで、保育内容への関心が高まった。また、ドキュメンテーションやホームページでも子どもの姿を発信することで、幼稚園教育への理解につながっている。より幼稚園教育への関心が高まるよう、保育内容の発信に努めていく。また、今後は地域や未就園児等、幅広く教育内容を知ってもらえるように、発信内容を工夫していく。
- ・安全や健康への関心が高まるような指導や環境の工夫を行い、安全な生活に対する意識をもったり、健康に過ごすために自ら気を付けたりできるようにする。また、子どもだけでなく保護者も意識がもてるような、保護者啓発の仕方も工夫する。
- ・教職員の異動に伴い、これまでの園の保育や業務などの取り組みについて、改めて共通理解を図ったり、見通しをもったりできるようにしていくことが必要となってきた。教職員間で連携を取りながら、業務内容の可視化や丁寧な打ち合わせ、内容の精選等を行い、効率よく取り組むことができるようにする。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・保護者アンケート「お子さんは、安全な生活に対する関心が高まりましたか」の項目について、肯定的回答の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・保護者アンケート「お子さんは、自然に親しみ、自分なりに考えたり工夫したりして遊んでいますか」の項目について、肯定的回答の割合を90%以上にする。
- ・保護者アンケート「幼稚園は、健康に関する指導に取組を行い、その内容に関する保護者啓発を行っていますか」の項目について、肯定的回答の割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- ・保護者アンケート「お子さんは、安全な生活に対する関心が高まりましたか」の項目について、肯定的回答の割合を75%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- ・保護者アンケート「お子さんは、自然に親しみ、自分なりに考えたり、工夫したりして遊んでいますか」の項目について、肯定的回答の割合を75%以上にする。
- ・保護者アンケート「幼稚園は、健康に関する指導に取組を行い、その内容に関する保護者啓発を行っていますか」の項目について、肯定的回答の割合を75%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

- ・教職員が連携して園行事等に取り組み、働きやすい環境を整備する。

3 本年度の自己評価結果の総括

年度末に行った保護者アンケートでは、調査3項目の全てにおいて肯定的な回答を得ることができた。子どもの興味関心を捉え、実態に応じて教育実践を行い、教職員で連携し実践していたことが反映した。また、保護者が保育に参加する機会をつくり、実際の保育の様子を見たり参加してもらったりした。また、ドキュメンテーションやホームページを使って、保育内容や子どもの様子を知らせたことで、保護者だけでなく地域にも園の教育内容を知ってもらうことができ、教育理解につながった。保護者の幼稚園への関心の高まりや、子どもたちの成長から幼稚園教育の大切さを感じてもらえ、保護者に評価された結果であると考え。今後も、保育内容充実を図るとともに、保護者への啓発や行事等への参加を工夫しながら、幼稚園の教育内容を理解してもらえよう努めていきたい。

(様式2)

大阪市立大和田幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 学校の年度目標 ・保護者アンケート「お子さんは、安全な生活に対する関心が高まりましたか」の項目について、肯定的回答の割合を75%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育の推進】 安全な生活に対する関心や意識を高める保育を進める 指標 ・安全な生活の仕方についての指導や環境を工夫する。(学期に1回以上) ・年間計画を立て災害や防犯を想定した避難訓練を行う。(年10回以上)	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容① ・保護者アンケートにおいて「お子さんは、安全な生活に対する関心が高まりましたか」の項目について、肯定的回答する保護者の割合は、95%であった。 ・1学期に5回、2学期に4回、3学期に3回避難訓練を行った。火災が発生した場所や子どもが活動する場を毎回変更して実施し、それに応じて安全な避難経路や避難場所はどこなのかを考え、あらゆる場面を想定して実施した。訓練を繰り返すことで、教職員がその時に応じた対応が必要であるとともに、お互いが声を掛け合い、現状を把握するという課題を共有することができた。5月には引き取り訓練を実施し、保護者が幼稚園への安全な送迎のルートを考えたり、知ったりする良い機会となり、安全に対する意識が高まった。地震、津波発生時の避難訓練では大和田小学校の屋上に避難したことで子ども自身も「津波がきた時には高いところに避難する」ということを知ることができた。火災の避難訓練時に地域の消防署から消防車と消防士の方に来てもらい、教職員が消火訓練を行い、子どもたちは消防車のことを教えてもらった。近隣の小学校や消防署と連携することで、地域での安全な生活の仕方を知る機会になった。毎月、避難訓練を実施することで、子どもたちが自分たちで命を守る避難の仕方が少しずつ身についてきた。 ・避難訓練の年間計画を作成し、実施後の振り返りや反省を記入する欄を作成した。避難訓練を実施した後に教職員で反省を出し合い共通理解するようにしたことで、子どもの避難の様子や課題が明確になり次回に生かせるようになった。 ・交通安全指導や避難訓練を実施する前に、視覚教材を使用しながら子どもたちに分かりやすく、安全な避難の仕方や、道路の歩き方を知らせた。子どもたちが自分自身で避難

の仕方や安全な道路の歩き方を意識するきっかけになった。

- ・園庭で危険な遊具の置き方や場所を教職員で共通理解し、危険のないよう環境を整備した。1年間大きな怪我もなく、子どもたちは安全に過ごすことができた。

次年度への改善点

取組内容①

- ・避難訓練の年間計画を作成し、その都度、反省を出し合い記入したことで、課題が明確になり、次回に生かすことができた。来年度も継続して年間計画を作成する。
- ・園内や園庭の安全な過ごし方については、教職員間で共有できていないこともあるので、安全点検を実施し、どんなことに気を付けなければいけないのか話し合い、子どもたちや保護者に周知したり、環境整備をしたりする必要がある。
- ・今後もあらゆる災害を想定し、「事前に予告なしで行う」「子どもが園庭や遊戯室など様々な場所にいる時に行う」など、どんな状況でも子どもたちが安全に避難したり、命を守ったりできるような避難訓練の内容を考え、実施していく。

(様式2)

大阪市立大和田幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 学校の年度目標 ・保護者アンケート「お子さんは、自然に親しみ、自分なりに考えたり、工夫したりして遊んでいますか」の項目について、肯定的回答の割合を75%以上にする。 ・保護者アンケート「幼稚園は、健康に関する指導に取り組を行い、その内容に関する保護者啓発を行っていますか」の項目について、肯定的回答の割合を75%以上にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向3、幼児教育の推進と質の向上】 園内の身近な自然の中で様々な遊びを楽しみ、好奇心や探求心をもって主体的に遊ぶ子どもを育てる。 ----- 指標 ・園内の身近な自然を取り入れて遊べるような指導や環境の工夫をする。 (月1回以上) ・幼稚園教育への関心が高まるように、保護者啓発を行う。 (ホームページ10回以上、ドキュメンテーション月2回以上) ・園内研究保育を行う。(年5回)	A
取組内容②【基本的な方向5、健やかな体の育成】 基本的な生活習慣が身につくように年間計画に沿って健康に関する指導を行う。 ----- 指標 ・健康への興味や関心をもてるような保健指導の内容を考え、年間計画を立て実施する。(年10回以上) ・保健だよりやホームページ・ドキュメンテーション等を活用し、保護者の啓発に努める。(年10回以上)	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容① ・保護者アンケート「お子さんは、自然に親しみ、自分なりに考えたり、工夫したりして遊んでいますか」の項目について、肯定的回答は95%であった。 ・月1回以上、園内の身近な環境を生活に取り入れ、楽しめるような活動を行った。季節に応じて園内の自然環境を取り入れて遊んだ。砂遊びや水遊びなど戸外でのいろいろな遊びの中で、草花を取り入れたり、園庭で集めた自然物をかいたりつくったりする活動につなげたりした。かいたりつくったりしたものは行事に生かすようにした。虫や草花、栽培物などとの関わりを繰り返す中で、それぞれの特徴や特性、移ろいがあることなどを知り、興味・関心をもっている姿や子どもたちが感じたり見つけたりした自然を遊ぶ

に取り入れる姿も見られた。また、「どうして変化するのか」と不思議に感じたり、以前の様子と比べたりする姿が増え、子どもたちなりに考えたり、試してみたりすることにつながっていった。

- 子どもたちの日常の様子や行事での様子などを、毎日の降園連絡やホームページ更新、ドキュメンテーションの掲示などを活用して、発信している。また、毎月の遊戯室降園では、子どもの遊びの様子や行事などの活動を写真で知らせ、保育の内容やねらい、子どもたちの育ちの様子が分かるよう伝えている。

また、毎月の「ようちえんだより」に、各学年の保育のねらいと子どもの様子を掲載している。子どもたちの様子や保育実践を担当が具体的に知らせるとともに、年間を通して自然に関わることで気付いたり、考えたりして遊ぶ子どもたちの様子を保護者に知らせることで、子どもの成長や良いところ、頑張っているところに気付き幼稚園と家庭がつながり子どもの成長を見守ることができた。

- 毎月、写真によるドキュメンテーションを作成し、子どもの様子や保育内容を知らせ、保護者啓発を行っている。そうすることで、保護者の方も教育内容を理解し、取組んできた様子を視覚的にも捉え、行事後のアンケートなどで子どもの成長を感じている様子が見られたり、幼稚園行事についても協力して参加してくれたりしている。

また、ホームページは2月末までに142回発信した。子どもたちの様子や保育内容を、写真も載せて知らせている。保護者と話をした際に、「ホームページで見ました」「写真が載っていましたね」とホームページを見ている旨の声もあった。今年度、2月末までの閲覧数は17,738件である。

- 外部から講師の先生を招き教育の資質向上のため園内研究保育を行った。

7月には、水（プール）遊びに関する指導要請を行った。また、10月には、かいたりつくったりする活動、12月には表現活動に関する活動における園内研修支援を行った。身近な自然に興味・関心を持ち、関わって遊ぶ中で、好奇心や探求心を育めるよう視点を持ち、教材研究や保育案作成を行い、研究保育を実施した。研究保育後の研究討議では、改めて自身の保育を反省し、子どもたちの様子や保育内容、環境設定、教師の教育的意図をもった働きかけなど、様々な視点からご指導いただき、教職員の学びにつなげた

取組内容②

- 保護者アンケート「幼稚園は、健康に関する指導に取組を行い、その内容に関する保護者啓発を行っていますか」の項目について、肯定的回答をする保護者の割合は95%で、目標を大きく上回った。
- 年10回以上、健康への興味や関心をもてるような保健指導の内容を考え、年間計画を立て実施することが出来た。内容は以下の通りである。

月	指導内容	月	指導内容
4月	手洗い・うがい	10月	目を大切にしよう
5月	トイレ(和式)の使い方	11月	はみがき
6月	熱中症・暑さ指数について 自分のだいじなところ ふわふわ・ちくちくことば	12月	咳エチケット
7月	早寝・早起き・朝ごはん	1月	3色栄養群
9月	けがの予防と自分でできる手当	2月	姿勢
		3月	あなたが生まれるまで

- ・入園した4歳児については基本的な手洗いうがい指導を丁寧に行うことや、5歳児についても効果的な手洗いが難しい幼児が見られた。再度、確認しながら手洗い指導の際に“あわあわてあらいの歌”を使用したことで普段の手洗い場面でも「おねがい～カメさん～」と歌を口ずさみながら手洗いをする様子が見られた。
- ・トイレを使用する際、友達トイレを下から覗くといった姿や用を足した後に流せていないという実態があった。また、和式トイレの使い方が分からないといった幼児の様子も見られた。指導の際に、トイレ模型を使ってトイレの使い方の確認、実践を行ったことで指導後のトイレの使い方に変化が見られ、和式トイレを使用できたという声も聞くことができた。
- ・5歳児では、全体的に自分の気持ちを言葉で表現することが難しい幼児が見られたため、ちくちくふわふわ言葉について指導を行った。指導後は「ちくちくことば」「ふわふわことば」を意識しながら話をしている様子が見られた。登降園時に、保護者も何気なく、「ちくちくことば」を使っている場面が見受けられたことから掲示物を通して「ちくちくことば」「ふわふわことば」について知ってもらう機会をもった。
- ・熱中症が発生しやすい時期には、熱中症についての保健指導の際に、「暑さ指数」について知らせたことで、子ども自身が「暑さ指数」を意識し、暑さ対策を考えるきっかけとなった。また、降園時にも暑さ指数を掲示したことで、保護者の意識にもつながった。
- ・季節性感染症の流行しやすい時期であることを踏まえ、感染症対策について子どもたちに知らせた。咳やくしゃみの飛沫がどれだけの範囲に及ぶのか、飛距離を糸の長さで表現すると、その距離に驚く姿が見られ、マスクをつけたり肘やティッシュで口元を覆ったりすることで飛沫感染を防ぐことができると気づき、自分たちでも少しずつ意識ができるようになり、保健日よりでも保護者に啓発したことにより、感染症対策の意識が高まった。
- ・12月には、園薬剤師から発光するクリームとブラックライトを使用した手洗い指導を受けた。手の汚れが目に見えたことで、洗い残し部分が確認でき、洗い残しの多い部分は、「手洗いの歌」に出てくるポーズを再確認し、歌に合わせて手洗いを行った。指導後も手洗いを確認し言葉をかけることで、意識して手を洗う姿が見られるようになった。長期休業中も家庭との連携ができるように手洗いに取り組む“げんきかれんだー”を作成した。裏面に洗い残しの多い部分を掲載し、子どもたちだけでなく、保護者にも手洗いの大切さを知ってもらう機会を設けた。
- ・幼稚園でのお弁当の様子を拝見していると、お弁当の中の食材に偏りがあることから、「三食栄養群」の指導を行った。子どもたちは指導後、継続して三色食品群に興味をもつ姿が見られた。保育室に三食栄養群についての掲示物を貼り、それを見ながら弁当の中身を見比べ、三色揃っているか確認したり、それぞれの食べ物のもつ役割を意識したりしながら楽しんで食べることができた。保護者からは、「3色栄養群について話を聞いたようで、子どもがお弁当に野菜を入れてほしいと言うので意識して入れるようにしています」「家庭でも食卓に野菜がないと怒られるのでバランスの良い食事を出すようにしています」との声があり、保護者の理解にもつながっており、家庭との連携も行うことができた。
- ・月1回、保健日よりやドキュメンテーションなどを作成し、保健指導の内容と指導後の子どもの様子を掲載した。登降園時に保健指導の内容を保護者へ知らせたり、ホームページにも子どもの様子を掲載したりした。
- ・園で様々な野菜を育てている様子や食に関する保健指導の取り組みを掲載した食育ポスターを作成し、登降園時や作品展での保健コーナーに掲示して啓発した。
- ・1学期終業式に行った保護者会では、昨年度から取り組んでいる生命の安全教育についてパワーポイントで啓発した。本園の実態を踏まえ、実施した保健指導「じぶんのだいじなところ」や「ふわふわちくちく」についての指導の様子、指導後の子どもたちの幼稚園での様子

などを発信した。普段、家庭で何気なく行っていることも、生命の安全教育につながっていることを知らせたことで、保護者からは生命の安全教育について「家庭でも話していきたい」「家庭でも生命の安全教育に取り組んでいきたい」という声を聞き、子どもの成長には家庭との連携が必要だと改めて感じることができた。2学期終業式に行った保護者会で、保健指導の内容や指導教材についてパワーポイントで啓発を行った。保健指導の様子や内容について様々な方法で発信することで、保護者から「園での様子がわかりやすい」との声があり、保護者啓発につながった。

次年度への改善点

取組内容①

- ・今後も子どもたちが身近な自然に親しみをもてるような保育内容を考え、教師自身が園内の環境を把握し保育に取り入れていく。
- ・次年度も引き続き、ホームページの更新やドキュメンテーションの作成などを行い、保護者啓発を行う。
- ・計画した園内研究会や園内研修を実施し、教師の資質・向上に努めていきたい。

取組内容②

- ・今後も子どもたちが基本的な生活習慣を身につけることが出来るように、子どもの実態に合わせて指導内容を考えていく。また、幼稚園全体で声かけを行い、継続した支援につなげる。
- ・引き続き、ホームページや毎月配布している「ほけんだより」やドキュメンテーションなどで保護者啓発を行う。
- ・子どもたちが保健指導後にも継続して興味・関心をもてるような教材を作成する。家庭でも継続して取り組めるようにカレンダー等を作成し、連携を図る。

(様式2)

大阪市立大和田幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 学校の年度目標 ・ 毎月の時間外勤務の時間を校種別平均時間より短時間にする。	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教職員が連携して園行事等に取り組み、働きやすい環境を整備する。 指標 ・ 仕事の見通しが立てることができるように行事予定の細案を作成し、個々の仕事の効率化を図り、園業務に努める。(毎月1回) ・ ホワイトボードの活用し打ち合わせや行事の役割分担などを可視化し教職員の共通理解を図る。(週1回以上) ・ ゆとりの日を設定する。(月4回)	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取り組み内容① ・ 4月から1月までの時間外勤務の累計平均時間が10時間56分であった。校種別平均累計時間が19時間02分だったので、目標を大きく上回り、前年度より改善されていた。 ・ 昨年度に引き続き、「ゆとりの日」を週1回設定した。行事予定表の中に組み込むことで、自分の仕事に見通しをもち、効率よく仕事ができるように努めた。 ・ 保育内容や子どもたちの様子などについて、日常での教職員間で連携を大切にするとともに、日頃から報告、連絡、相談を意識しながら共通理解を図ることができた。 ・ 職員室内のホワイトボードの活用とともに、打ち合わせや配布物など月ごとに細案を作成し、教職員で共有している。特に式典関係や大きい行事については、早めから行事に関する役割分担や進捗状況・締切日などが分かるように日程表を作成し、効率よく進められるようにしている。可視化されていることで、業務内容や進捗状況が把握できている。職員数は少人数であるが、互いに声をかけ合ったり、助け合ったりしながら、円滑に業務を遂行することができた。
--

次年度への改善点

取り組み内容① ・ 今後も各々が仕事の見通しをもちながら教職員間で共通理解を図り、協力して効率よく業務を遂行できるように工夫していく。
